

通信小海

サンデー・スクールが 始まります

牧師 水草修治

昔、「世の中まちがच्चよる！責任者つれてこい！」とどなるおじいさん漫才師がいました。それを相方の奥さんがたしなめるのです。自分もおじいさんみたいになつてきたと危機感をもちました。

家庭が荒廃し、学校が荒廃し、若者たちの心が荒廃し、社会が荒廃しているというなかで、「世の中まちがच्चよる！」と言って腕組みしているだけではしかたないので、できることから始めることにしました。毎週日曜日の朝八時半から九時半まで、子ども会を

【今月のひとば】

「あなたの若い日にあなたの創造者をおぼえよ。」伝道者十二

開きます。

サンデー・スクールの内容は、たのしいゲーム、子どもさんびか、ためになるおはなし、工作などです。お子さん、お孫さんを見晴台の教会にどつぞ送ってください。

学費、ですか？子どもが創造者を知って、

「ありがとう」という気持ちを育てるために、サンデー・スクールの時間に「けんきん」の時を持ちますので、十円でも五円でも五十円でも百円でも、心いっぱいのささげものをさせてあげていただければ十分です。ないときは気持ちだけでも十分です。

私どもの願いは、子どもたちが小さいときに自分の存在がどんなにたいせつかを知って、きよくゆたかな人生を歩んでほしいということです。

「あなたの若い日に、あなたの創造者をおぼえよ。」伝道者の書十一章一節

日本同盟基督教団 小海キリスト教会 牧師 水草修治

会堂・牧師館 長野県南佐久郡小海町大字小海四三三五 二七

〒三八四一一 二二 二六七九二四七七六

郵便振替 五三 六一六八三

見晴台の教会へどつぞ

(小海駅東の丘の上)

地図

集会あんない

日曜日 サンデースクール午前八時半

朝礼拝 午前十時から十一時

夕礼拝 午後八時半から九時

水曜日 祈り会 午後一時半と午後七時半

金曜日 賛美歌と聖書に親しむ会

第一第三金曜 午後七時半

第二第四金曜 午前十時

*個人的なご相談にも乗ります。

きもちいい

福音指圧教室

指導者 井出ゆかり（浪越学園日本指圧

専門学校卒）

日時 五月十二日（日）

午後一時半から三時

注意 必ず夫婦、親子、兄弟などペアで

来てください。

今年は春が早く、畑の仕事も早め早めに進んでいるのでしょうか。冬の間休めていたからだを急に使い始めて、みなさん大丈夫ですか。重い肥料袋などもって、ギックリ腰などならぬように用心してください。

また、毎日コンピュータの画面に目をくぎ付けにして、目が痛くなり、頭が痛くなり、ついで肩が痛くなっている人、いませんか。聖書を勉強していたら、「私もなにかお役に立てないかなあ。」という指圧師の人がいました。「指圧のこころ母心、押せばいのちの泉湧く」で有名な浪越先生の学校を出た人です。そこで、教会で新企画「福音指圧教室」を始めます。家庭で手軽にできる指圧法を伝授してまいります。

指圧は一人ではできませんから、おうちでお互いにできるように、必ずペアで参加してください。またそれにふさわしい服装でおいでください。

また、なんでイエス様はしばしば手を置いていやしを行われたか、その秘密をおわかちできればとも思っています。

「イエスは、深くあわれみ、手をのびしえ、彼にさわって言われた。『わたしの心だ。きよくなれ。』」と福音書にありますから。

心もからだもリラックスして、元気になつてください。無料です。気軽にご参加ください。

「賛美歌と聖書に

親しむ会」へどうぞ

第一・第三金曜 午後七時半

第二・第四金曜 午前十時

主よ 御手もて ひかせたまえ

ただ我が主の道をあゆまん

いかに暗くけわしくとも

みむねならば われいとわじ

山谷にご支援を

二月には九二七食を供給できました。感謝。米調味料（しょうゆ 塩 だし）が必要です。お願いします。

小海町役場 九二二五二五

藤田寛 ヤマト運輸・台東支店止め（着店番

号三一 五）クロネコ宅急便で

カンパ 千振替 二四 四五三七九六

山谷農場

高校生の頃

「おまえほんまに神様なんか存在すると思ってるの？それならこの本を読んでみるよ。」そうやって、私はわざわざクリスチャンであるという友人に、読めばクリスト信仰から離れたくなるような本を貸してやった。高校三年生のことである。

幼児期にはキリスト教主義幼稚園に通っていたものの、小学・中学・高校と進むにつれて、私は急速に無神論者になっていった。あの時代、学校でもテレビでも科学的知識がすべてであり、科学にあわないものはみな迷信であるという迷信を植え付けられたように思う。そうして私はまさに「愚か者は心のなかで神はいないと言っている。彼らは腐っており、忌まわしいことを行なっている。」(詩篇十四：一)ということになってしまったのである。

神はいなかったのだろうか。神は沈黙していたのだろうか。いや、目さえ偏見に閉ざされていなければ、一輪の野のゆりにも、人間の緻密なからだの仕組みにも、壮大で精巧な天体の運動にも、創造主からのメッセージを聞き取ることはできたのである。この世界に存在する大小さまざまなものは、とつてい偶然できた姿をしていない。精巧・微妙・緻密なデザインがあり、意図がある。

先日、教会をはじめて訪ねてくれた小学生たちに、「この家はだれが造りましたか？」と聞けば、「大工さん」と答えた。「この椅子はだれが作りましたか？」と聞けば、「家具屋さん」と答えた。「じゃあ、君たちのことはだれが造ったんですか？」と聞いたら、「おかあさん？・・・いや、神様！」と答えた。無神論に洗脳される前の子どもたちは、ちゃんと知っているのである。

「神の目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はつきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。」ローマ二：二十

「なんのために生きているんだろう。偶然こうして自分が存在し、偶然この世界もできあがったにすぎないとしたら、生きていることも偶然のことにすぎない。そうしたら、生きていく目的なんてあるわけもない。人生なんて、無意味なことにはちがいない。」無神論的な考え方は、結局、虚無的な生き方に傾いていつてしまった。人生の目的は、せいぜい自分の欲望を満足させること以外にはないものではないか。自己満足のための人生にすぎないならば、なんとむなしなことだろうかと失望した。

昔、「嗚呼人生不可解」と言って、華嚴の滝に飛び込んだ学生がいたそつだ。もつともなことである。今では、むなしさの果てにマリファナや似非宗教に刺激を求める若者たちがふえている。これまたもつともなことかもしれない。彼らは神なき人生のむなしさに耐えられないのではないか。

「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわいの日が来ないうちに、また『なんの喜びもない』という年月が近づく前に。」伝道者の書十二：一